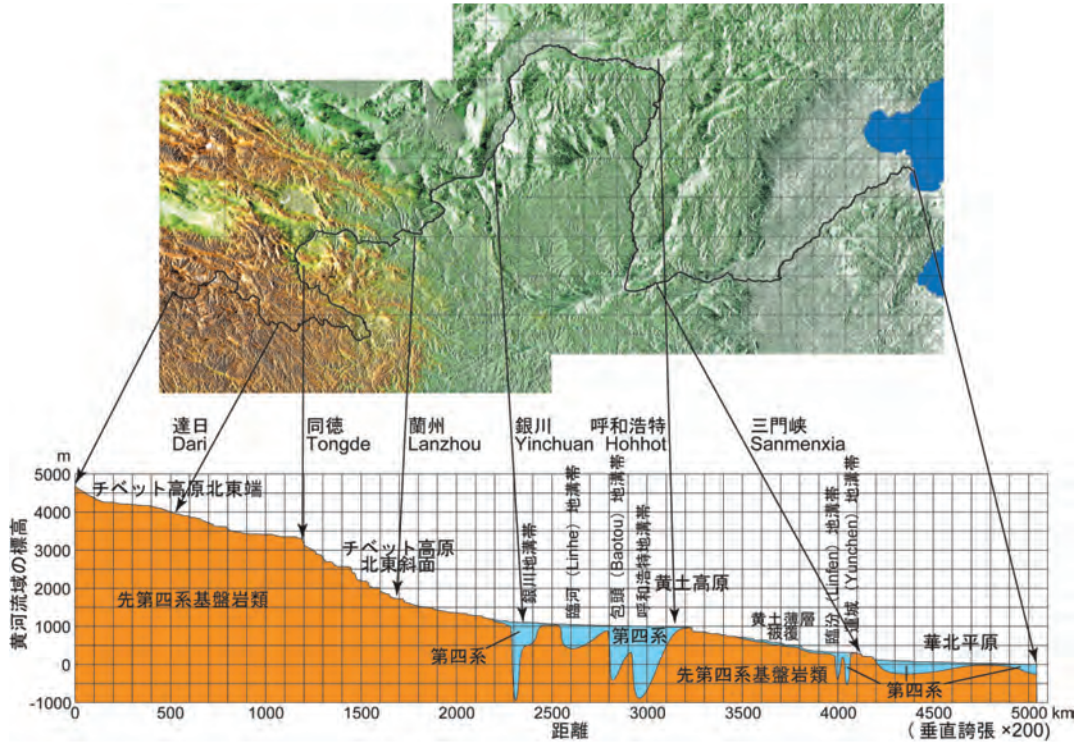
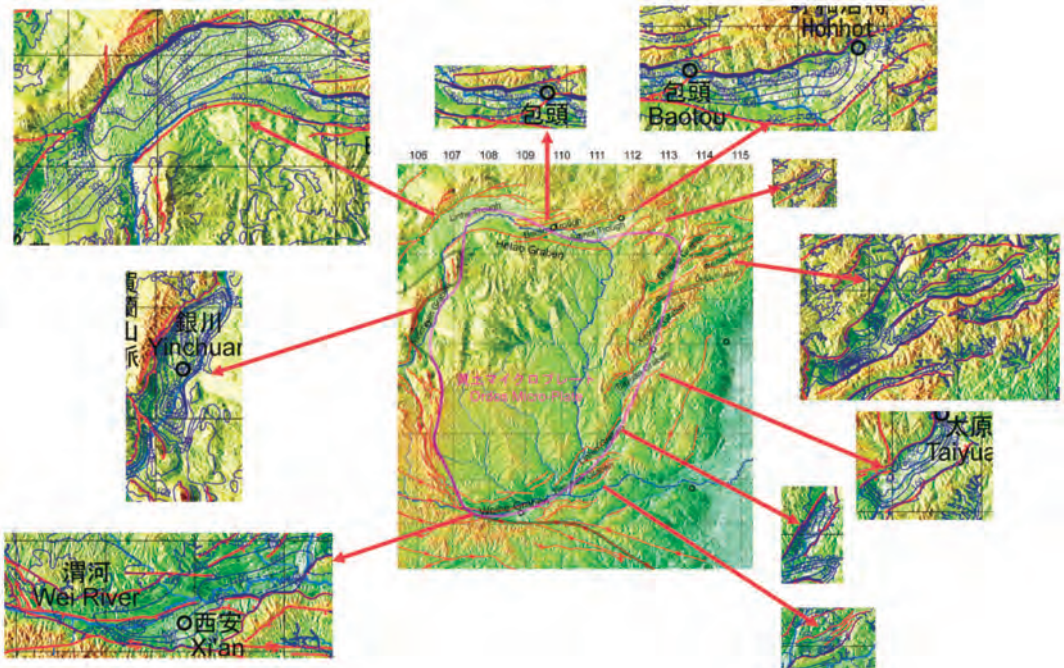


地溝帯に囲まれた黄土 (Ordos) マイクロプレート

<村岡 洋文・玉生 志郎・内田 洋平・石井 武政>



第1図 黄河流域の標高と第四系の分布の関係。地形描写にはSRTM30秒データとカシミール3Dを使用。黄河は主流の長さが5,500kmに及ぶ。その中流域には黄土 (Ordos) マイクロプレートがあり、その周辺は多数の地溝帯で囲まれ、異常に厚い第四系の堆積場となっている。



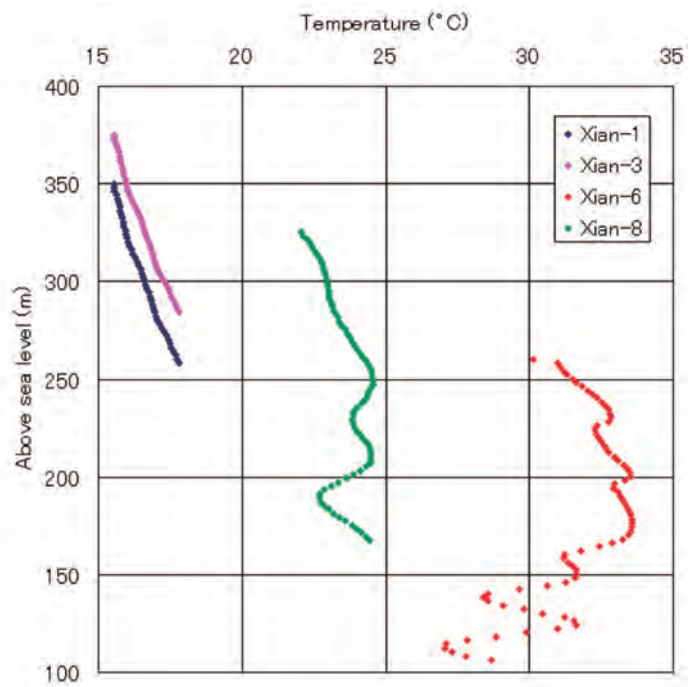
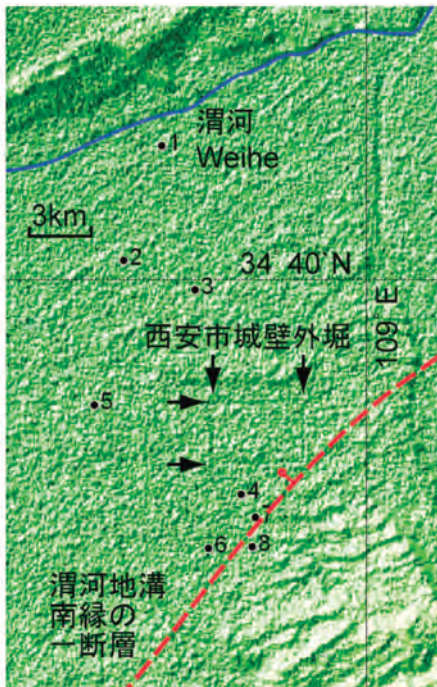
第2図 中央は黄土マイクロプレート周辺の断層分布図、周辺の挿図は各地溝帯における第四系の等層厚線図。地形描写にはSRTM30秒データとカシミール3Dを使用。



写真1
銀川市東方の黄土高原のバルハン型砂丘。

写真2

包頭(Baotou)地溝帯の北縁断層。断層崖がステップ状の2重構造になっている。これは多くの地溝帯にみられる一般的特徴である。なお、黄土高原周辺では頻繁に黄砂が舞っており、写真の透明度は距離とともに急激に低下する。



第3図 渭河(Weihe)地溝帯南縁における断層と温度検層結果との関係。左図はSRTM3秒データとカシミール3Dを使用した地形と坑井位置図。右図は坑井温度検層図。6号井や8号井の温度変化は断層の影響によると推定される。